

平成30年度 北部地区労働衛生管理推進

大会が開催されました

平成30年度の北部地区労働衛生管理推進大会（共催：（一社）沖縄県労働基準協会北部支部，建設業労働災害防止協会沖縄県支部北部分会，沖縄県産業保健総合支援センター）が平成30年9月4日に北部会館において開催されました。



- 平成30年度北部地区労働衛生管理
推進大会の様子 -

北部地区労働衛生管理推進大会は、労働衛生に関する意識を高揚させ、事業場における自主的労働衛生管理活動を通じた労働者の健康確保を図ることを目的に、全国労働衛生週間（10月1日から7日）の準備期間である9月中に毎年開催されているもので、今年度は各企業の代表者や労働衛生管理担当者約100名が参加し、行われました。

大会では、最初に、労働災害で亡くなられた労働者の冥福を祈り、1分間の黙とうが捧げられました。

主催者からは、「労使が一体となって職場の健康づくりを目指していく」という挨拶が行われ、当署の安慶名署長からは、「長時間労働・過重労働に起因する脳血管疾患や心臓疾患の労災請求事案が増加傾向にあること、ストレスチェック制度をはじめとしたメンタルヘルス対策が必要となっていること、仕事と治療の両立支援対策が求められていること、働き方改革関連法が成立、公布され労働時間管理等の一層の対策が求められていること、7年連続ワースト1となた定期健康診断における有所見率の改善が求められていることなど、取り組むべき課題が多いが、本日の大会を契機に、各事業場での取り組みを一層活発化させ、生き生きと働きやすい職場づくりを進めていただきたい」という呼び掛けが参加者に対して行われました。

そして、当署の安全担当者からは、名護署管内における経年的な定期健康診断の有所見率の推移の説明を行いました。



- 参加者へ挨拶・呼び掛けを行う
安慶名名護労働基準監督署長 -

また、特別セミナーとして、「胃がんについて」と題して、中部徳洲会病院の外科医である手登根勇人氏から、胃がんについての基礎知識と早期発見し外科的な治療を行うことの重要性に係る説明が、実際の病例の写真を用いながらパワーポイントの資料により行われました。

大会終盤では、「働き盛り世代の健康改善が、健康長寿沖縄の復活の鍵との指摘もあり、社員の健康増進から企業の活力・成長につなげる「健康経営」の考えに基づく職場づくりのため、心身ともに健康で働けることの重要性を確認し、各事業場において自主的な労働衛生活動の一

層の促進を図っていく」とする大会宣言を採択し、その後参加者全員で、平成30年度全国労働衛生週間スローガンの「指差唱和」を行い、今後さらなる労働衛生活動を実施していくことを決意しました。



- 特別セミナーを行う
中部徳洲会病院 手登根勇人 先生 -



- 参加者全員による指差唱和 -



- 会場に設置された健康診断コーナーの様子 -